

山行報告書

受付 No.	198	登山地・ルート	水晶岳 ～東沢谷廻行 読売新道より
目的	夏山を楽しむ		
メンバー	大山、岡村		
行動記録			

月 日 曜	天候	ポイント地点・所要タイム
8・24・水	晴れ	浜松＝扇沢◎＝黒部ダム～平の小屋～奥黒部ヒュッテ 7:57 11:58 14:46
8・25・木	雨	奥黒部ヒュッテ～（読売新道）～赤牛岳(ピバーク) 6:12 14:25
8・26・金	雨/晴れ	赤牛岳～水晶岳～東沢乗越～野口五郎岳～烏帽子小屋 5:35 9:02 10:24 12:53 16:23
8・27・土	晴れ	烏帽子小屋～南沢岳～不動岳～船窪岳～船窪小屋テント場 4:50 7:03 8:42 12:20 13:40
8・28・日	晴れ	船窪小屋テント場～北葛岳～蓮華岳～針ノ木乗越～扇沢◎＝浜松 4:10 6:45 10:05 11:20 15:10

記事 目的の成否・状況・問題点(反省)・メンバーの状況・ルートの注意点・自然状況

【1日目】日本列島に横たわる停滞前線を恨みがましく見ていた入山前。扇沢の手前で寄ったコンビニで、迷いつつも沢装備を車に置いて行く選択肢を岡村さんに提案してみたが、反応が鈍い。そうだな、前線の動き次第で天気はどうなるかわからないし、最初から今山行最大の目的を捨てるのもな…と思いなおす。不合理を敢えて背負うのも登山だ！扇沢の朝は結構冷え込んだ。7時半始発のトリーバスで黒部ダムへ。ケーブル乗り場の手前で左に行き、ダムに沿って歩く。入り組んだダムの縁を忠実に辿るので非常に効率が悪い。所どころ登山道が崩壊している箇所はバグで高巻く。登山地図のコースからして平の小屋まであと1ピッチと効をくっっていたら、前からきた作業の人にあと1時間以上かかると言われ、12:00の船に乗りたかったので焦る。最後は休憩も取らずにオーバーペースで歩き続け、へとへとになって12:00ぎりぎりに小屋に辿りつくと、のんびりした雰囲気の中、船頭さん（小屋のご主人？）が、まあ10分くらい休んでから出発しましょうと言われて力が抜ける。船は快適。対岸に渡り、こちらバグのある登山道を歩いて思ったより早く奥黒部ヒュッテに着いた。小屋の人によると、沢は増水しているが水の引きは早いとのこと。受付をしてから偵察に出かけると確かに水量は多いように思うが、明日まで降らなければ行けるかも、と期待した。

【2日目】夜の10時頃、テントをたたき雨音が目が覚める。ああ～と思う。結構な降り、絶望的な気分になった。4時起床。朝になると雨は上がり、空も明るいよう。しかし読売新道に行くことにし、途中でピバークすることになった場合に備えてテント生活用の水も背負って行く。登山道を少し進んだところで荷物を置き、未練がましく沢の様子を偵察に行く。出だしを巻けるところがあるか確かめようと、1時間くらい藪ごぎをして徒労に終わり、最後に昨日の所から沢に降りてみると昨日より増水していた。これで沢への未練を断ち切り読売新道に行く。なかなか急登で、途中から雨も降り出し気分は低迷。それでも森林限界を抜けると多少気分も変わる。1か所、尾根が崩壊している所は慎重に通過し、赤牛岳へ。山頂の東側には整地された箇所があり風も当たらず絶好のピバーク地になっていた。本日はここで行動終了とした。

【3日目】静かな夜だった。3時半起床。朝はガスで真っ白な中を出発。稜線に出ると風が強かった。ここから水晶岳まで地味なアップダウンを繰り返して、思ったよりも水晶岳は遠かった。というか、登山地図のこのエリアのコースが非常にタイトに感じた。水晶小屋に下る頃には雨が強くなってきて、憂鬱な気分が縦走路を野口

五郎岳方向へ向かう。東沢乗越までの登山道が結構悪く、沢を上がってから水晶岳ピストンという当初の計画もなかなか大変だぞと思った。野口五郎岳が近づくと、ガスが薄くなって五郎池が見えた。それからガスがどんどん上がっていき野口五郎岳の山頂では水晶岳や槍ヶ岳まで見えた。野口五郎小屋に下る頃には陽差しも出て暑くなった。すっかり晴れた稜線を歩きながら、今朝出発した赤牛岳を望み、よく歩いたなあと思う。行動時間が10時間に達し、疲労を感じた頃に目の前に三ツ岳の大きな姿が見えぎよっとするが、ここは巻き、後は一気に200mほど下って烏帽子小屋のテント場に着く。学生チームなどいて、久々に賑やかな雰囲気。

【4日目】夜、一度雨音を聞いたが、起きる頃には止んでいた。3時起床。雨と露でびしょ濡れのワイとテントを撤収。烏帽子岳へ向かう途中で日が昇る。烏帽子岳はパス。そこからの登山道は大きな岩がごろごろしている歩きにくい道。湿地帯へと下ると露に濡れた草が情け容赦なくズボン濡らし、靴の中がぐしゃぐしゃしてきた。乾いて晴れていればきれいな所だが…。南沢岳は巻くつもりでいたのに、巻き道がなく、しかも直登する道も登山道の崩壊とかで付け替えられていてかなりの急登だった。南沢岳から乗越まで200m程下り、不動岳まで同じくらい登り返す。登山道は右手側がかなり崩壊していて、そのまま崩壊が進めばこのルートはどうなるのだろうかと思った。不動岳からは上り下りを混じえつつ400mくらい延々と下る。植生が変わっていくのが虚しい…。最低鞍部まで下りてからも100mくらいの上り下りを繰り返しながらの登高で、体力気力を消耗していく。船窪岳の辺りはフィックスロープを頼りに岩を登り、鎖を掴んでスラブを下る。ようやく辿りついた船窪のテント場は広いけれど寂しい場所。テントは自分たちの1張だけだった。テント場から小屋まで20分。テープとビールで締めくくった。ちなみに水場はかなり足場が悪いので、暗くなってからは行っては大丈夫とキツを刺されたが、たしかに悪い所だった。

【5日目】静かな夜だった。2時半起床。4時過ぎにヘッドライトで出発。地形図にある2509ピークへのショートカット道は登山道の崩壊によると思われるが実際にはない。稜線に出ると薄明るく、痩せ尾根の手前で明るくなってよかった。北葛岳からは蓮華岳への渡り廊下のような尾根を歩き、蓮華岳の出だしは遠目には大岩壁。どこを登るのだ?と思ってたら、鎖などが付けられそれほど困難はなかった。この辺りから船窪方面に向かうたくさんの登山者とすれ違う。蓮華岳に至る頃にはガスが上がってきてしまうが、昨日苦しめられた船窪岳に至る稜線が見える。針ノ木小屋のあるコルでは照り付ける陽射が痛いくらいだった。時間的に針ノ木岳はパス。次回、針ノ木谷からアプローチしたい。針ノ木峠からの下りは雪渓が崩壊しているため、左岸の巻き道に行く。所どころにロープが付けられていて整備は現在進行形のような感じだった。登ることを想像したくないようなうんざりするくらい長い下りで、途中すれ違う人の、入山したての清潔な匂いに時々立ち止まりつつ扇沢に下山。振り返れば、苦しくも楽しい夏山だった。

紙面不足の場合は裏面へ

報告者	大山	受付	平成	年	月	日	受付者
-----	----	----	----	---	---	---	-----



渡し舟といっても手漕ぎではなかった…



沢には下りてみたものの…読売新道へ



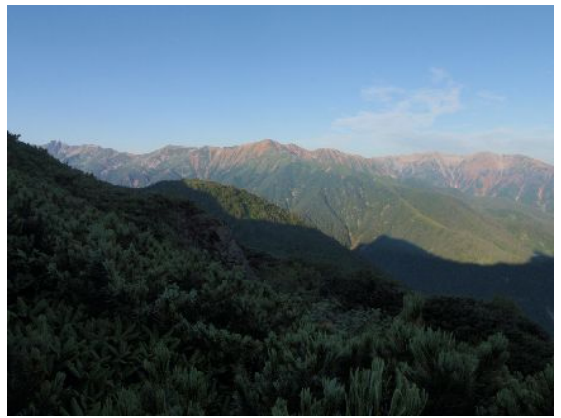
読売新道上部～ダム湖が見えた



ガスが晴れて水晶岳と東沢谷現る…



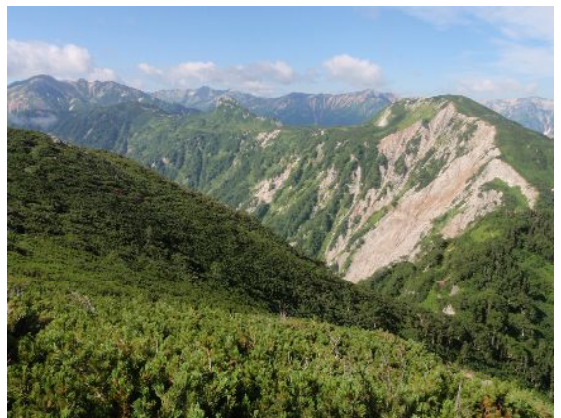
赤牛岳のビバーク地



読売新道全貌



東沢乗越の標識～沢に行ったらこの辺りに出てきたのだろう



南沢岳の東面は大きく崩れており、地形図にある巻道はなくなったのかなと思った



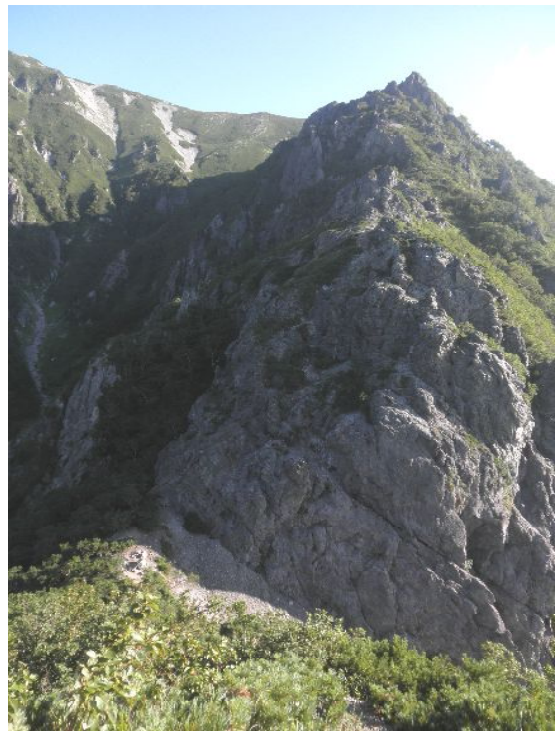
不動岳から針ノ木岳～蓮華岳と、この先の崩壊地…このショットを最後に大山のデジカメは壊れた



蓮華岳と北葛岳の間の渡り廊下の尾根を次々とガスが通っていった



岡村さんがデジカメを貸してくれた。
船窪岳への上り。フィックスロープはあるけどこれ登るの？って感じだった



蓮華岳の出だし

振り返るのもうんざりする昨日歩いたデコボコ尾根 ⇒

